

細菌・ウイルスに対する理解 ～第2弾（中級編）～

ASP Japan合同会社 Marketing Professional Education

神貴子

2020/Dec

本日の内容

- 感染経路別に見た主な微生物
- 主な感染経路
- 感染防止の具体策

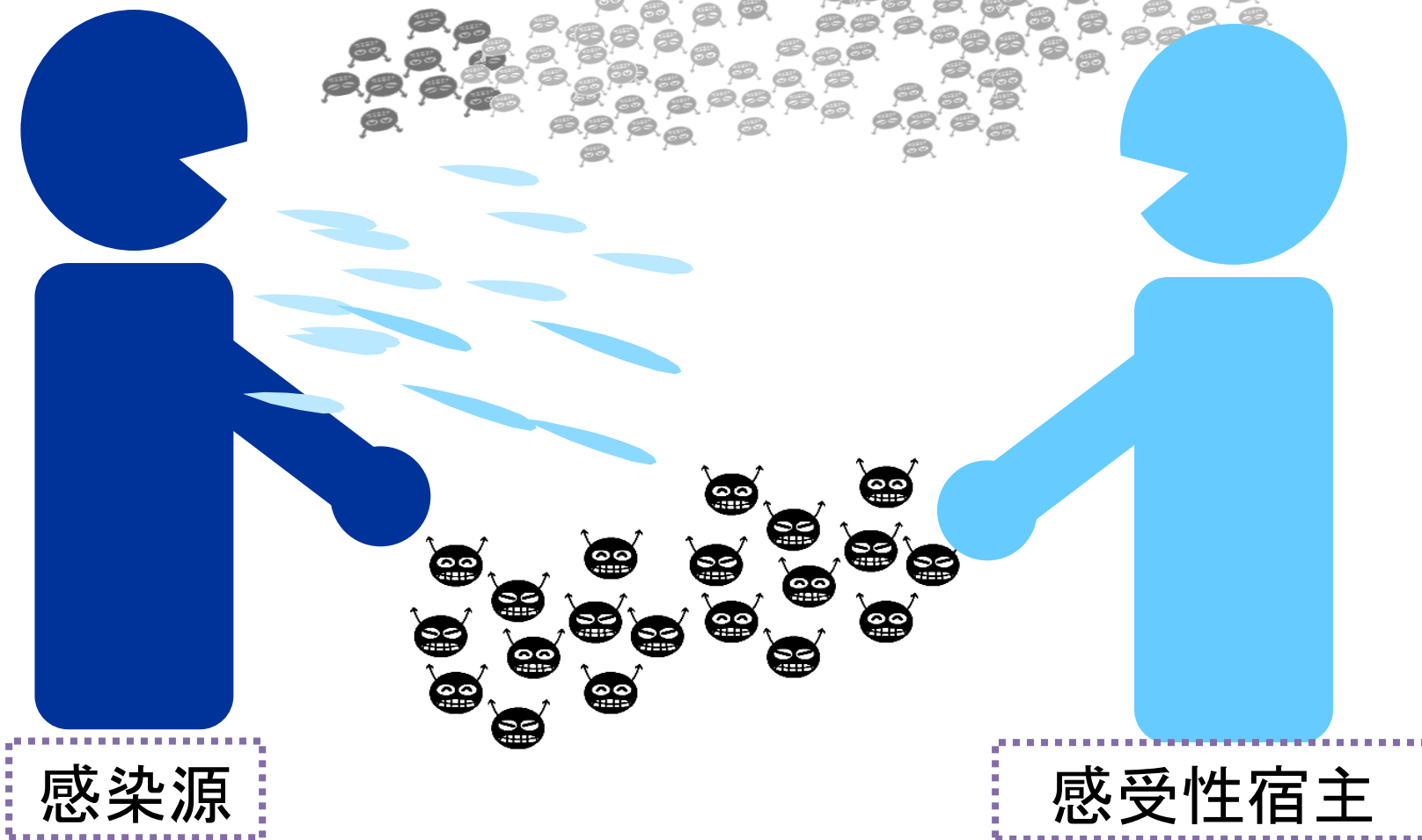
感染経路別の予防策

感染経路

空気感染

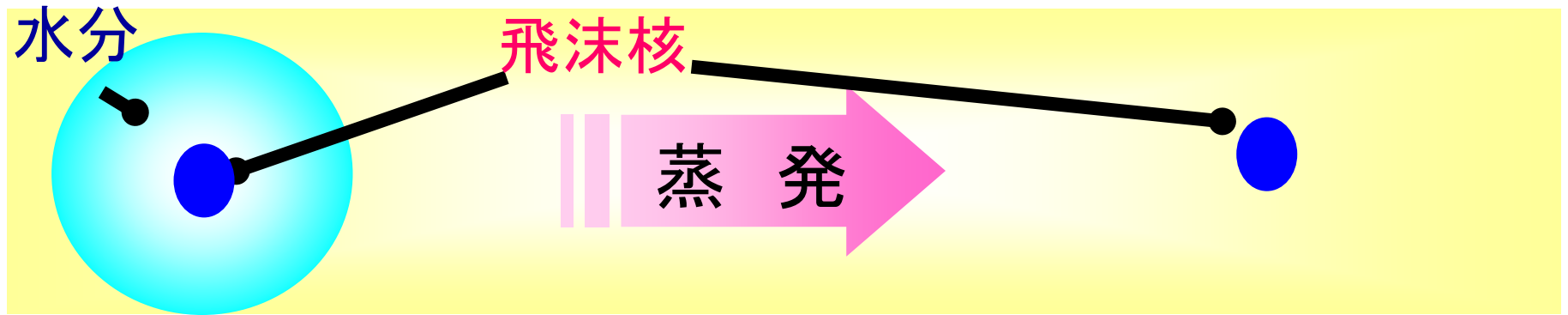
飛沫感染

接触感染





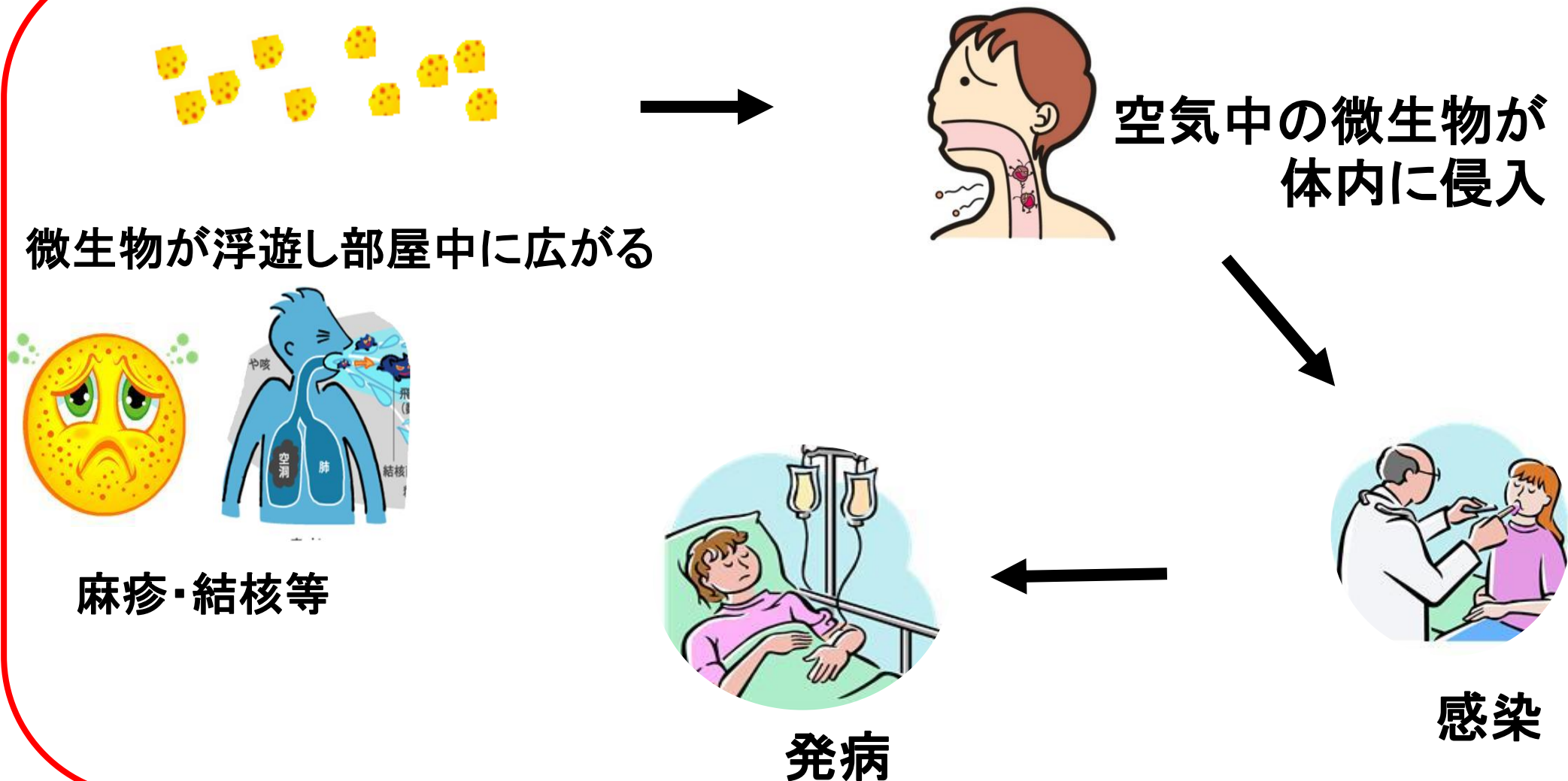
空気感染と飛沫感染のちがい



	飛沫感染	空気感染
粒径	5 μ m以上	5 μ m 以下
感染経路	1～2m程度の飛散	空気中に浮遊

厚生労働省策定 IV 医療施設における感染対策ガイドライン p24より引用 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/pdf/08-06-04.pdf>

空気感染のイメージ



飛沫感染のイメージ

インフルエンザ
罹患者

咳やくしゃみで微生物
は数メートル浮遊



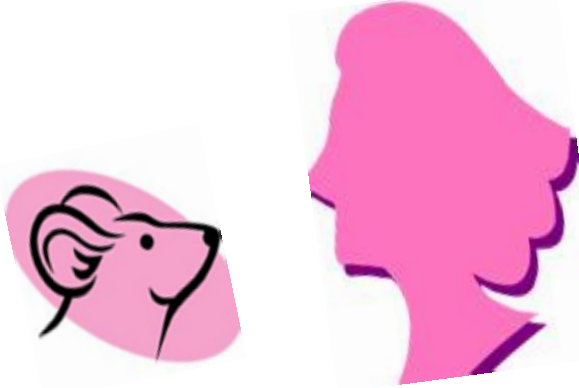
飛沫範囲内の人の体内に侵入

感染・発病



ゴホゴホ
ゴホゴホ

接触感染のイメージ(直接感染)



- 動物に口移しで食べ物を与えるなどの濃厚な接触。
- 肌から肌への直接接触による皮膚病などの感染。同室で就寝する家族や、寄宿舍、介護の現場での感染例が多く見られる。



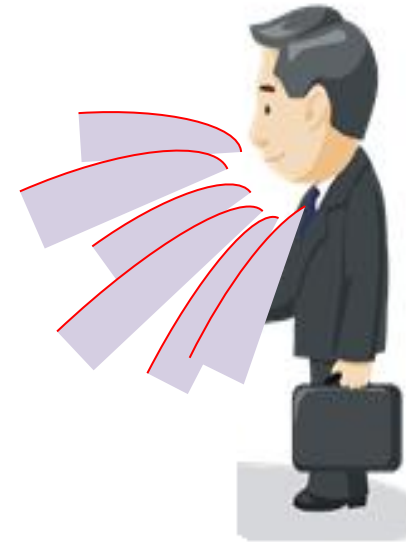
ちなみに、子供たちの間で流行っている「シラミ」は頭をくっつけることにより、シラミが移動して感染します。

接触感染のイメージ(間接感染)

インフルエンザ罹患者の咳、くしゃみから手に微生物が付着

何かを介して微生物が移動

握手した手で自分の鼻などを触り感染・発病



はくしゅん!

どうやって感染を防ぐのでしょうか。





咳エチケット

何もせずにせきやくしゃみをする



せきやくしゃみを手でおさえる



1. マスクを着用する。



2. ティッシュ・ハンカチなどで口や鼻を覆う。



3. 上着の内側や袖（そで）で覆う。



厚生労働省HP咳エチケットより引用

スタンダード・プリコーション

（**standard precautions**、標準予防策）とは

1985年に米国CDC（国立疾病予防センター）が病院感染対策のガイドラインとして、ユニバーサル・プリコーション（Universal precautions、一般予防策）を提唱しました。これは、患者の血液、体液、分泌物、嘔吐物、排泄物、創傷皮膚、粘膜血液は感染する危険性があるため、その接触をコントロールすることを目的としたものでした。その後、1996年に、これを拡大し整理した予防策が、スタンダード・プリコーション（標準予防策）です。「すべての患者の血液、体液、分泌物、嘔吐物、排泄物、創傷皮膚、粘膜等は、感染する危険性があるものとして取り扱わなければならない」という考え方を基本としています。

※ 感染症・非感染症の区別しない

感染経路別予防策＋SP

空気感染
予防策

飛沫感染
予防策

接触感染
予防策

標準予防策

(SP/スタンダードプリコーション)
すべての患者に適応する

感染経路其々の予防対策と、SPの両方が必要

個人用防護具

personal protective equipment

帽子

シールドつきマスク
またはゴーグルとマスク

手袋

防水エプロン

シューカバー





接触感染予防対策





質問や勉強会のお問い合わせは
担当営業までお願いします。